

Investor's Report

2024年3月期

[2023年4月1日～2024年3月31日]

それじつは、
シンメイワ。

世界各国の風景に溶け込みながら、

快適でスムーズな暮らしを支える

「じんかいしゃ塵芥車」をつくっているのも、

じつは、新明和グループです。



ニュージーランド・北島にて

© 今日マチ子

株主の皆様の「声」をお聞かせください

アンケートフォームへのアクセス方法

今回の「Investor's Report」の内容や、当社のIRIに関するご意見をお聞かせください。

右の二次元コードからアンケートフォームにアクセスしていただけます。

回答してくださった方の中から抽選で、薄謝（QUOカードPay 500円分）をお送りいたします（メールアドレスのご入力が必要となります）。2024年8月31日まで受け付けておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



▼こちらから



Contents

連結業績ダイジェスト/ セグメント情報	1
トップメッセージ	3
財務担当役員メッセージ	6
企業情報・株式に関する情報	7

連結業績ダイジェスト

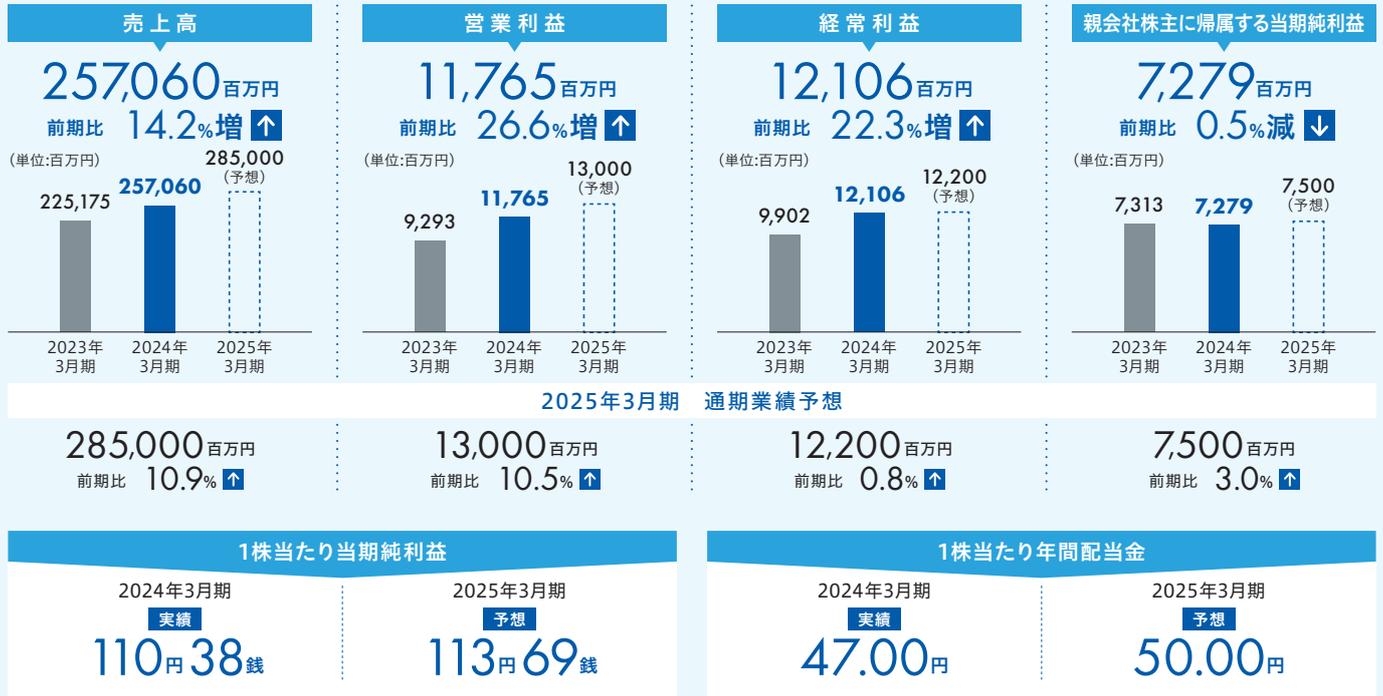
[概要]
※前期比

売上高

「その他」を除く全てのセグメントが増収。
今回初めて、2,500億円の大台を超える過去最高の売上高を計上。

利益

営業利益・経常利益：増収に伴い増益。
親会社株主に帰属する当期純利益：特別利益の減少、税金費用の増加により微減。



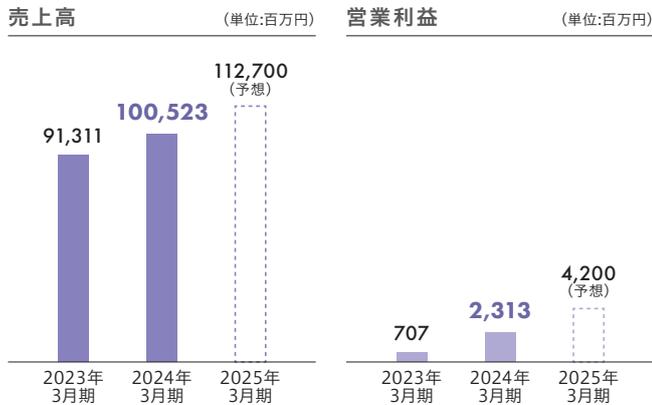
セグメント情報

特装車

- 売上高** 2022年度に実施した価格改定効果、主要部品の調達ペース改善等により増収。
- 営業利益** 運営費等の費用増はあったものの、価格改定、売上増加が寄与し増益。

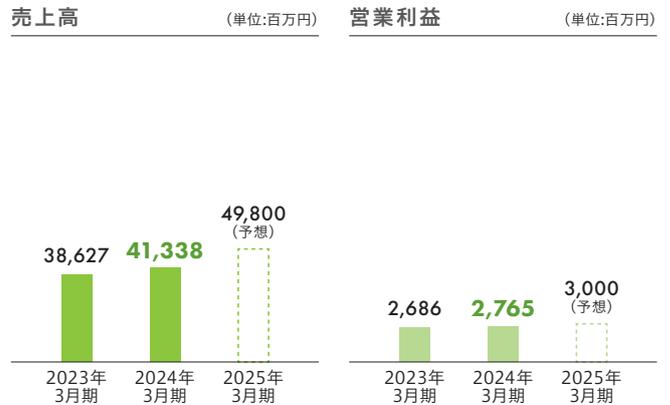
パーキングシステム

- 売上高** 機械式駐車設備:改修工事、多段方式駐車設備の増加等により増収。
航空旅客搭乗橋:国内・海外いずれも増加した結果、増収。
- 営業利益** 運営費は増加するも、改修工事の増収効果により微増益。



2025年3月期の見通し

- 1年分を超える受注残高がある中、2023年度に実施した2回目の価格改定効果、部品調達に関する課題解消等により増収を見込む。
- 利益については、増収効果による増益(収益性改善)を見込む。



2025年3月期の見通し

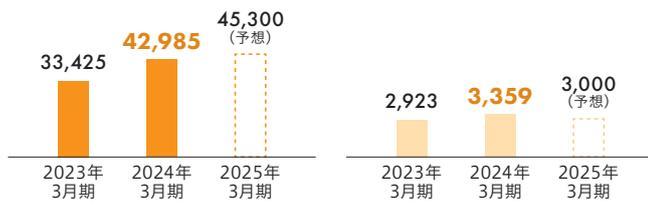
- 海外向け航空旅客搭乗橋の大幅増加を見込み、セグメント全体も増収計画。
- 増収効果による増益を見込む。

産機・環境システム

売上高 グループ会社の韓国真空(株)、ごみ中継・選別システム等の増加が寄与し、増収。

営業利益 運営費は増加するも、増収効果がこれを上回り、増益。

売上高 (単位:百万円) 営業利益 (単位:百万円)



2025年3月期の見通し

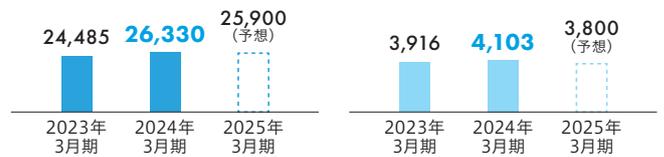
- 環境システム関連の増加を見込み、増収計画。
- 営業利益は、運営費の増加等により減益予想。

流体

売上高 国内・海外市場、サービス分野、いずれも好調で増収。

営業利益 原材料価格の上昇、運営費増加を増収効果で吸収し、増益。

売上高 (単位:百万円) 営業利益 (単位:百万円)



2025年3月期の見通し

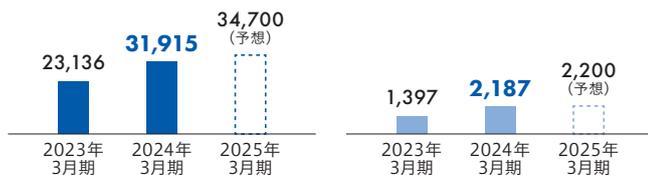
- 期首受注残高の減少や受注見通しを勘案し、減収を見込む。
- 上記の売上見込みに加え、運営費のさらなる増加を想定し、減益予想。

航空機

売上高 防衛省向け(US-2型救難飛行艇の製造、修理等)、民需関連(ボーイング社777、787の部品製造等)いずれも増加し、円安効果も加わって増収。

営業利益 増収、円安効果が寄与し、増益。

売上高 (単位:百万円) 営業利益 (単位:百万円)



2025年3月期の見通し

- 防衛省向けではコンポーネントの増加、民需関連ではボーイング社向け部品の生産機数回復を見込み、増収予想。
- 減益要因として、運営費の増加や為替レートの変動(1ドル=140円、前期実績は1ドル=144.8円)はあるも、増収効果を勘案し、増益を見込む。

その他

売上高 建設分野が減収となり、全体でも減収。

営業利益 運営費の増加等が影響し、若干減益。

売上高 (単位:百万円) 営業利益 (単位:百万円)



2025年3月期の見通し

- 建設分野の増収を見込み、全体でも増収計画。
- 増収効果による増益を見込む。



新中期経営計画 [SG-2026] 始動

— テーマは【拡大】 —

信頼していただける企業グループであることを大切に

取締役社長 **五十川龍之**

いつも当社グループを応援していただき、誠にありがとうございます。

はじめに、令和6年能登半島地震の被害に遭われた皆様に心からのお見舞いを申し上げますとともに、ご家族や大切な方々を亡くされた皆様には、謹んでお悔やみを申し上げます。

現在当社グループは、「長期ビジョン」で描いた企業像の実現を目指しております。その第一フェーズとして【転換】を志向した中期経営計画[SG-2023]はこの3月に終了し、4月からは、新たに【拡大】をテーマとする中期経営計画[SG-2026]に取り組んでおります。

今回は、[SG-2023]の振り返り、そして[SG-2026]の注力点などを説明いたします。

1. 中期経営計画[SG-2023]を振り返って (活動期間:2021年4月～2024年3月末)

(1) 目標値の達成状況

	目標値	実績
売上高	2,500 億円	2,570 億円
海外売上高 (内数)	450 億円	532 億円
営業利益	150 億円	117 億円
ROE (自己資本利益率)	10 %以上	7.1 %
ROIC (投下資本利益率)	7 %以上	5.3 %
配当性向	40~50 %	42.6 %

目標値に対して、売上高および海外売上高 (内数) は達成しましたが、それ以外は未達となりました。特装車セグメントとパーキングシステムセグメントが、資材費の高騰などにより利益が低調であったことが主な要因です。その結果、ROE (自己資本利益率)、ROIC (投下資本利益率) は利益と連動するためどちらも目標水準に達せず、これが大きな要因となり、PBR (株価純資産倍率) も「1倍」を下回る状況が続いております。

いずれのセグメントも市場環境の安定を見込む中、主要な経営指標を改善・向上していくには、利益の源泉である売上高を増やすとともに、①生産性の向上、②適正な売価設定、③コストの圧縮、これらに並行して取り組むことが必須と考え、今般スタートした[SG-2026]で具体策を実践してまいります。

(2) 主要施策の進捗状況

売上高が増えた背景として、

- ・ M&A効果
- ・ 受注拡大
- ・ 円安効果

等が挙げられます。

近年M&A等によりグループ会社が増え、中でもEV用リチウムイオン電池市場向け装置を扱うKOREA VACUUM LIMITED (韓国真空 (株)) が伸長著しく、これが産機・環境システムセグメントの業績や、海外売上高が伸長する原動力となりました。

既存製品に関しては、「深掘り」をテーマに、新たに情報通信技術やデジタル技術を搭載するなど改良開発に注力し、一方「探索」活動では、積年の課題である新事業を創出するべく、本社内に新事業戦略本部を置き、社内外から新たな芽を見つけ、育てる取り組みを推進してまいりました。

また、成長戦略を支える経営基盤強化策は、重要課題 (マテリアリティ) に対する目標やKPI (重要業績評価指標) の一部に検討途上のものがあつたことから、[SG-2026]ではより具体的な目標を設定いたしました。



▲韓国真空(株)の主力製品「車載用二次電池向け真空乾燥装置」



▲3月に発売した「新型eCanter架装EVダンプトラック」

2. 新中期経営計画[SG-2026] (活動期間:2024年4月～2027年3月末)

[SG-2026]では、従来のフォーキャスト(予想)の視点に、バックキャスト(未来を起点として現在に遡って計画を立案し、目標を設定)の視点を加えて、長期ビジョンの実現に必要と考えるレベルを目標に定めました。

また、経営サイクルの中に「資本」と「ステークホルダー」という重要要素を織り込み、常に意識しながら経営を行う仕組みを敷きました。(次ページ「価値創造プロセス」概要図参照)

[SG-2026] 目標値

売上高	3,200 億円
海外売上高(内数)	800 億円
営業利益	180 億円
ROE	10%以上
ROIC	7%以上
DOE(株主資本配当率)	3%程度

[SG-2026]期間の注力テーマは次の6項目です。

(1) 成長戦略

多くの基盤製品を有する当社グループの強みに磨きをかけるべく、世の中の変化に適応する新製品開発や既存製品へのDX適用など、常に先端技術を追求してまいります。

同時に、国内市場の成長には限界があることから、海外市場でのブランド認知、M&Aを含む協業先の開拓に注力してまいります。

(2) ROICの改善、向上

あらゆる経営活動においてROIC向上を志向するべく、投資案

件の見極めと借入金の適正水準維持などの経営施策とあわせて、在庫の適正化、プロセス改善等による生産性向上・コスト削減など、職場単位の取り組みも推し進めてまいります。

(3) キャッシュアロケーション(資金配分)

成長投資を計画的に実践し、早期に収益拡大とROIC改善につなげること、また、株主の皆様に向けては新たに設けた配当方針にそった還元の実現に努めてまいります。

(4) 人的資本

成長戦略と人材戦略は密接に関係しております。組織力を高めるうえで「個」の存在と成長は不可欠であり、個人が持てる能力を発揮できる制度の導入、適材配置、育成教育を実践するとともに、エキスパート人材の獲得にも恒常的に努めてまいります。

(5) 環境、社会

これまで当社で取り組んできたScope(温室効果ガス排出量)1,2の対象をグループ会社にも広げるとともに、当社においてはScope3の導入準備を進めてまいります。

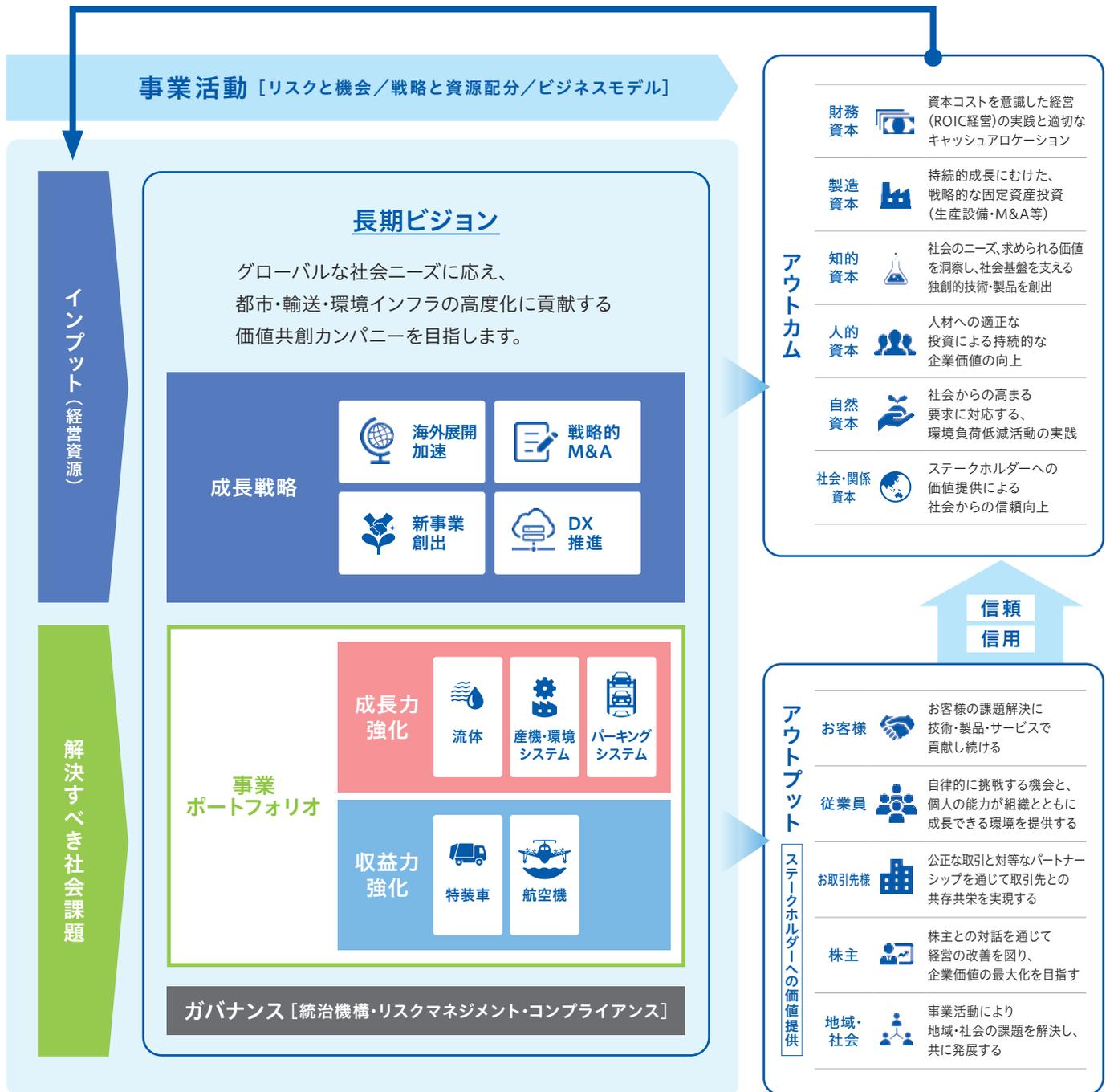
また、当社グループが各ステークホルダーに提供する価値を提示し、これを具現化していく諸施策を通じて、ステークホルダーの皆様とより良い関係構築を志向してまいります。

(6) リスクマネジメント

事業関連リスクに加え、増加する社会リスクを想定した対策の立案、万一発現した際の初動マニュアル、事業継続計画、実地訓練が不可欠です。社会から信頼される企業グループであるために、役職員全員が「正しいことをしよう!」を合言葉に、「行動指針」「行動規範」に則った言動を実践してまいります。

経営理念

新明和グループは、たゆまぬ技術革新で、
安心な社会と快適な暮らしを支え続け、
人々の幸せに貢献します。



外部環境の変化 / メガトレンド

社是・行動規範・行動指針 » 企業文化

3. 経営者として大切にしていること

本年1月にご案内したアンケートに、多くの株主様が回答をお寄せくださいました。この場をお借りしてお礼申し上げます。当社の成長性、安定性に期待して投資して下さっている方がほぼ同率であること、また、配当に関しては、一株当たりの配当金と配当性向を重視される方々がほぼ同率でした。当社グループは、株主の皆様のご期待に応えることで信頼を得て、持続的成長を遂げる存在でありたいと考えております。こうした中、昨秋、パーキングシステム事業部が公正取引委員会の立入検査を受ける事態

を招き、経営者として自社を統治する責任の重さを痛感しております。役員には、本誌4ページの(6)リスクマネジメントの項に記した事項を励行させるとともに、そこから逸脱していないかチェックする機能を強化し、皆様との信頼関係の維持に努めてまいり所存です。なお、公正取引委員会の検査につきましては、結果が明らかになり次第速やかにご報告申し上げます。

株主の皆様には、今後とも当社グループをご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

株主の皆様は、昨年来、東京証券取引所がPBR（株価純資産倍率）1倍を下回る上場企業に対して改善策を開示・実行するよう促していること、そして、当社のPBRが長らく1倍割れの状態にあることをご認識のことと思います。

足元の純資産をもとに試算しますと、理論上PBR 1倍超となるには株価が1,600円を上回り、株式市場から持続的な価値向上が期待できる銘柄と評価されなければならないと認識しております。

1. 「資本コストや株価を意識した経営」の実践

長期・中期経営計画の目標指標にROE・ROICを含め、この3年間は長期目線で資本コストを意識する経営へと転換を図ってまいりました。[SG-2023]で掲げたROE・ROICの目標水準は未達に終わりましたが、その間に、投資や資金調達を行うにあたり、投下資本の適正性を判断材料に含めるなど社内の意識転換を推し進めました。具体的には、事業（製品）別にROICの値を算出し、指標を「見える化」して各々の現在のポジションと課題を社内でも共有いたしました。[SG-2026]では、これをもとに当社グループの将来事業ポートフォリオを見定めることとしております。

2. 配当について

[SG-2023]では、配当方針として「配当性向40～50%」を掲げ、期間中はこれを実現してまいりました。

取締役
常務執行役員 財務部長
久米 俊樹



[SG-2026]では、新たに「DOE（株主資本配当率）」を導入し、株主の皆様が拠出された資金に対して、当社が還元を行う目標比率をお示ししております。これは、当期純利益をよりどころとする配当性向の場合、年度ごとに分母が変動し、還元の実態が把握しづらいと考え、安定的かつ長期目線の成長を目指していくため、株主資本を分母とする「DOE」を採用することにしました。

$$\text{DOE (株主資本配当率: 単位 \%)} = \frac{\text{配当支払総額}}{\text{株主資本}} \times 100$$

ご参考までに、[SG-2023]期間中のDOEをお示します。

2022年3月期	3.1%
2023年3月期	3.1%
2024年3月期	3.0%
3か年平均	3.1%

株価は、私たちのこうした思考の転換や諸施策、収益計画に対する株式市場の期待度で変動いたします。積極的に情報発信を行い、状況が変化した際は丁寧に説明する姿勢を大切に、皆様から信頼していただける企業グループを目指して、これからも取り組んでまいります。

企業情報・株式に関する情報

会社概要 (2024年3月31日現在)

商号 新明和工業株式会社
設立年月日 1949年11月5日
資本金 15,981,967,991円
従業員数 3,264名
連結従業員数 6,453名

株式の状況 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数 300,000,000株
発行済株式の総数 70,000,000株
単元株式数 100株
株主数 28,052名

株主構成



()内の数値は株式数の比率。四捨五入した数値を表示しております。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,727,400	11.71
三信株式会社	6,749,065	10.23
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,059,100	6.15
新明和グループ従業員持株会	3,189,614	4.83
住友不動産株式会社	1,837,800	2.78
東洋ビルメンテナンス株式会社	1,391,300	2.10
新明和グループ取引先持株会	957,069	1.45
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	917,200	1.39
JP MORGAN CHASE BANK 385781	777,217	1.17
BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND	734,600	1.11

(注) 持株比率は、自己株式数(4,029,045株)を控除して計算するとともに、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

役員

詳しくはこちらから▶



役員については当社ホームページをご覧ください。
<https://www.shinmaywa.co.jp/company/outline.html>

2024年3月期 第2四半期 アンケート ご協力御礼

2024年1月下旬から2月にかけてご案内したアンケートに、5,000名を超える株主の皆様から回答が寄せられました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

ご回答内容を総括しますと、

- ・当社株式保有年数：約4割の方が1~3年、約3割の方が3~5年
- ・保有株数：約7割の方が100~1,000株を保有
- ・銘柄選定ポイント：「成長性」「安定性」を選択された方がほぼ同率で約3割、「配当」が3位
- ・IRに対するご希望：「Investor's Report」「ウェブサイト」「株主総会」各々の充実を期待、となっております。

すべての株主様のお手元に届く本誌では、経営者の想いや当社グループが進む方向性などをわかりやすくお伝えするよう努めてまいります。今回のアンケートにも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※表紙に、回答フォームにアクセスする二次元コードを記載しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日~翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日

配当金
・2024年3月期 1株当たり年間配当金:47.00円 (うち、期末配当金:24.50円、年間配当性向 42.6%)
・2025年3月期 1株当たり年間配当金(予想):50.00円 (年間配当性向 44.0%、DOE 3.0%)

定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人/特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.shinmaywa.co.jp/>
(ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

各種手続きについて

証券会社等に口座をお持ちの方

口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。なお、以下のお手続き等につきましては、下欄の株主名簿管理人にお問い合わせください。

- 郵送物等の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

特別口座に口座をお持ちの方

下欄の株主名簿管理人/特別口座管理機関にお問い合わせください。

株主名簿管理人/特別口座管理機関

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL 0120-094-777 (通話料無料)

表紙のことば

当社グループの製品が社会に溶け込んでいる様子を漫画家 今日マチ子さんに描いていただいた「それじつは、シンメイワ。」シリーズ。本誌表紙への掲載は、今回で4回目となります。

街のあちこちで見かける当社製の塵芥車(ごみ収集車)。ダンプトラックと同じく、日本国内では2台に1台の割合で当社ブランドを付けた車が走行している計算になります。

この塵芥車、海外でも、その国のごみ収集スタイルに合わせた仕様で活躍しています。表紙のイラストは、南半球 ニュージーランドで使用されている塵芥車と街並みを今日さんに描いてもらったもので、鮮やかな色合いが、街中で映えています。



それじつは、シンメイワ。

世界が誇るシンメイワの製品が、海外でも活躍しています。表紙のイラストは、南半球 ニュージーランドで使用されている塵芥車と街並みを今日さんに描いてもらったもので、鮮やかな色合いが、街中で映えています。

ブランドムービー▶



新明和工業株式会社

〒665-8550
兵庫県東塚市新明和町1番1号
TEL 0798-56-5000 (代表)

<https://www.shinmaywa.co.jp/>

